

令和 3 年度使用

中学校用教科用図書研究資料

国 語

教科用図書南那珂採択地区協議会

1 教科目標の達成及び教材の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 国語科の目標を達成するために、「学びの扉」、「学びを支える言葉の力」で習得した基礎的な資質・能力が「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各教材の中で活用できるような構成の工夫が見られる。 また、「読むこと」で習得した「言葉の力」を、その後の「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の教材で活用できるようにするなど、領域間でつながるような配列の工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 国語科の目標を達成するために、「目次」で標準的なカリキュラムを示すとともに、「本編」では必修の学習内容を扱い、「資料編」では学習を支える資料を示すなど、弾力的なカリキュラムマネジメントが可能となる構成の工夫が見られる。 また、生徒の発達の段階や学年の特性、学校生活や行事等を考慮しながら、単元の系統性を明確にして、どの学年においても、同じ時期に同じ領域が学習できるような配列の工夫が見られる。
17 教 出	(1) 国語科の目標を達成するために、必須教材を単元化した「本教材」と、学習時期を柔軟に扱ったり、補充等として扱ったりする「小教材」「資料」に分けるなど、学習内容に応じて効率的に学習計画が組み立てられるような構成の工夫が見られる。 また、「目次」では単元で取り上げている話題・内容に応じたキーワードを示すことで、生徒が様々な課題について考え、学習できるような配列の工夫が見られる。
38 光 村	(1) 国語科の目標を達成するために、教材を「本教材」「小教材」「コラム」「特設教材」で構成するなど、習得した「知識及び技能」を活用して「思考・判断・表現」を繰り返すことができるような構成の工夫が見られる。 また、「言葉による見方・考え方」の育成に向け、各領域が特定の時期に偏ることがないように年間8系列のテーマをバランスよく学習できる配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 教科書全体を通して、生徒が日常生活で陥りがちなつまずきの場면을「学びの窓」で扱い、言葉の使い方に関する課題を主体的に発見できるような工夫が見られる。 また、課題解決的な言語活動が数多く設けられ、対話を通して学びを深められるなど、主体的・対話的で深い学びを展開できるような工夫が見られる。 (2) 情報の整理の仕方や情報と情報の関係の捉え方を生徒にとって身近な例を題材に取り上げて学べるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 「言葉の力」と対応する「目標」が教材冒頭に示され、生徒が「言葉の力」を意識しながら学習に臨めるような工夫が見られる。 また、教材末尾には記述式の「振り返り」が設けられ、「言葉の力」の確実な習得を促し、自己評価ができるようにするなど、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 各学年巻頭の「領域別教材一覧」と各教材冒頭に目標を示し、見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにするなどの工夫が見られる。 また、各学年の第1単元に「グループディスカッション」を設け、「話し合いのこつ」に系統性を持たせるなど、主体的・対話的で深い学びを展開できるような工夫が見られる。 (2) 教材で使われている言葉を多様な観点から豊かにする「語彙を豊かに」を設けるなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 教材を通して読み方の方法を示した「読み方を学ぼう」を設定し、各学年の巻末にはその一覧を示して、既習事項を繰り返し確認しながら学習できるなどの工夫が見られる。 また、「読み方を学ぼう」では「こんなときに使える」を示し、様々な場面で活用できるようにしているため、自分の力を伸ばしていけるなど、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する工夫が見られる。

17 教 出	(1) 各教材冒頭に「学びナビ」を設け、文章を読む前や言語活動に取り組む前に、学習の視点を理解することで、学習に見通しをもって主体的に学習に臨めるような工夫が見られる。 また、「読むこと」教材の「みちしるべ」など、各教材の学習活動や生徒の交流活動で相互に課題を交換しながら主体的・対話的で深い学びを展開できるような工夫が見られる。 (2) 各学年、各単元に設定したキーワードと教材の話題に関連した図書を「広がる本の世界」として紹介するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 全国学力・学習状況調査等での「思考力問題」を解決する「学びのチャレンジ」を示し、多様なテキストを組み合わせ問題の解決に当たるような工夫が見られる。 また、社会における表現力等の必要性を取り上げたコラム教材「言葉と社会」は、生きて働く力や求められる表現力等、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する工夫が見られる。
38 光 村	(1) 各教材のてびきとなる「学習」のページに「目標」から「振り返る」までの学習過程が見開きで一覧でき、分かりやすく示すことで、主体的に学習に臨めるような工夫が見られる。 また、「学習の窓」で図解入りの解説を用いて汎用的な読みのポイントを分かりやすくするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 古典学習では、美しい韻律を味わえるようにQRコードで朗読音声を開けるようにするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 巻頭に「思考の地図」を設け、思考ツールなどを用いて情報を視覚化したり、情報を整理したりしながら共有する方法の工夫が見られる。 また、「思考の地図」が示す様々な思考法を使って、場面や状況に応じて生徒が活動に合わせて活用できるなど、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに生徒にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 生徒が身に付けたい言葉の力への気付きを促すために、教材の前に「学びの扉」を設け、巻末の「学びを支える言葉の力」で身に付けた力を測るなど、学習効果や利便性を高める工夫が見られる。 また、生徒が自分でまとめを行えるようにするために、各教材のポイントや身に付けたい資質・能力を「言葉の力」にまとめるなど、生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 生徒が見通しをもって学習に臨めるように、「目標の確認」から「学びを振り返る」までの学習の流れを、教材の後の「学びの道しるべ」に示すなど、学習効果や利便性を高める工夫が見られる。 また、生徒自身が考えを整理するために、「学びの道しるべ」の課題と関連付けた「思考の方法」を図示するなど、生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。
17 教 出	(1) 生徒が教材を深く読めるように、教材の前に「学びナビ」を設けて、「何を学ぶか」を示し、「何が」、「どのように」書かれているかを自主的に学べるようにするなど、学習効果や利便性を高める工夫が見られる。 また、生徒が自分で読む手助けとするために、「学びナビ」の「ここが大事」と関連付けた教材の後の「みちしるべ」を設定するなど、生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。
38 光 村	(1) 生徒が主体的に学ぶことができるように、教材の後に「学習」を設けて、学びを深めるための学び方や学習の流れを示して、見通しをもって学習に臨むことができるようにするなど、学習効果や利便性を高める工夫が見られる。 また、「学習の窓」で「学習で用いる言葉」を説明し、生徒が学習用語を使用語彙として蓄積できるようにするなど、生徒にとって分かりやすい工夫が見られる。

4 地域の願いや思い、生徒の実態等

〔観点4〕 家庭や地域と連携した学習の推進とともに、生徒の確実な基礎・基本の定着という視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 地域と連携した学習内容として、「書く」領域において文章の構成や、紹介文作成の題材として地域の魅力が取り上げられており、これらの学習を通して地域を学ぶことができる工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「日本語探検」「文法の窓」「漢字道場」が設定されており、語彙を広げるための工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 地域と連携した学習内容として、「書く・話す」等の領域において、情報誌作成のテーマとして地域の魅力が取り上げられており、これらの学習を通して地域を学ぶことができる工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「言葉発見」「文法の窓」「漢字を身に付けよう」が設定されており、語彙を広げるための工夫が見られる。
17 教 出	(1) 地域と連携した学習内容として、「話す・聞く」領域において、文章構成を考える学習の題材として地域の防災が取り上げられており、これらの学習を通して地域を学ぶことができる工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために、「言葉と社会」「文法の小窓」「漢字の練習」が設定されており、語彙を広げるための工夫が見られる。
38 光 村	(1) 地域と連携した学習内容として、「読む・話す」領域において、プレゼンテーション作成の題材として地域の魅力が取り上げられており、これらの学習を通して地域を学ぶことができる工夫が見られる。 (2) 生徒の確実な基礎・基本の定着のために「言葉」「文法への扉」「漢字に親しもう」が設定されており、語彙を広げるための工夫が見られる。